

1. 意見

別紙/07107

天塩川河口域における漁業とサニルダムについて

現在、天塩川河口域においてはしじみがい、ワカサギ、サケ、サクラマス等を有用漁種の生息水域であり、サクラマス資源については国、北海道が孵化事業より撤退し今後は自然孵化に頼らざるを得ない状況にあります。サニル川にはサクラマスの産卵床が多数確認されておりサクラマス資源の再生産には非常に重要な河川でありダムを造る事は魚道を設置しても川を遮断する事になり孵化に影響が懸念される。

天塩川上流部にダムを造る事は、下流において漁業を営む漁業者にとって砂の供給がなくなる等漁場の荒廃につながる。

河口域では河川浚渫工事等により漁場は大きなダメージを受け、現在も河川内での浸食及び海岸浸食で漁場の縮小が進んでおり、自然に手を加えたと元に戻す事は不可能に近いのではないかと。また、天塩川流域委員会の説明資料のなかで洪水状況の写真を載せているが岩尾内ダムが昭和46年完成後にこれら洪水が発生しており当時より堤防が整備されている今日では洪水の発生する可能性は非常に少ないのではないかと。